謹賀新年

津奈木

前安九志

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）代表3117番

◎あいさつをしましょう

新助役　松本金義氏

○明治四十一年一月生れ
○大正十五年三月　芦北農林校卒
○昭和三年九月津奈木村役場勤務
○昭和十七年十一月収入役選任今日にいたる。収入役たること十二年六年間、本町の財布を握って微勤だにさせなかった。

新収入役　長浜学氏

○大正七年二月生れ四十五歳
○昭和十四年歩兵十三連隊入隊
○〃　十六年満洲及び南方方面に憲兵として活躍
○昭和三十年役場に入り現在に及ぶ。
実績はよく人の知るところ

四十四年は「シシ」奮迅の年

町長　斎藤亀齢

新年おめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。おかげで無事にたくさんの仕事をさせていただきました。まず土木の主なるものをあげますと

㈠四十三年に完工のもの。
産業道路（内野丸尾農道、平国地区合串福浦農道、柴竹地区宇土橋馬米橋、赤崎中央林道、小津奈木地区町原排水路、町中地区中村水路）など

㈡継続工事中のもの
福浦漁港関連道、千代地区神前農道、千代岩城地区岩瀬農道、津奈木地区首林道、など

㈢調査計画中のもの
平国八迫林道、赤崎日添農道、石木田農道、倉合三号線連絡道など
津奈木地区大野原林道、辻平国連絡道路など

㈣既設道路の舗装
津奈木町全道路の延長はすでに六万米以上に達した。そこで既設の道路の保存管理のために舗装用具を買い入れ町道の舗装を初めたところ、ひじょうに評判がよく、今年も引きつづき実施することにした。

何といっても受益者が個人感情や個人利益のみに走らず、一致協力した部落が実現が早いのは止むを得ないことである。

次に小学校の新築移転であるが、鶴山氏初め土地所有者の絶大なるご協力により、工事も第一期が来る三月に完工の予定である。関係者ご一同に厚く感謝の意を表します。校地の跡はプール、綜合グラウンド、幼稚園、青年の家、大ホールなど文化センターを形作りたいと思っている。

また工場誘致のことであるが、一部の人のみの幸福でなく、全町民がすべて豊かで明るい生活ができるためには、干拓地に工場を誘致するより外にない。どうぞ皆さん最大多数の最大幸福のためにご協力を

四十四年は「シシ」奮迅の年です。頑張ります。

大干拓問題

議長　福村広人

町民の皆様

新年おめでとうございます。

元日を迎える度にその年の方針を樹立し、気分を一新してその実現に努力せんものをと肝に銘ずるものであります。

先ず昨年をふりかえって見ますと、我が国の国際的信頼度は高まり、特に経済面では国民総生産額で西ドイツを凌駕し、米ソについで第三位となり、その各産業部門での躍進ぶりは全世界の注目的となり、畏敬の念すら持つに至るまで成長を遂げつゝあるのであります。しかし国民一人当り所得額ではまだ二十一位でありますので、更にその向上に努力を要するわけであります。いずれにしましても、今年は日本経済が更に一段と飛躍し、それと相俟って社会環境も一層充実して来ることと思います。かゝる国内の現状下にあって、私達の郷土津奈木町をいかにして時代の趨勢にマッチさせ繁栄へ導くかを熟慮するときであります。

私は本町における昭和四十四年度の最大の関心事は「**津奈木大干拓**」の問題であると思います。議会においても昨年より真剣にこの問題と対処して参って居りますが、今年こそその結論を、津奈木町百年の大計を基調として見出す年であると思います。申すまでもなく、この津奈木大干拓を最高度にその効率を発揮出来るように善処することにより、本町の経済基盤を確立し、以って町政の発展向上に資すべきと思います。従って議会でも更に本年は一層の努力を傾注してまいりたいと思います。

更に本年の大きな農政問題として柑橘の流通価格等の案件があると思います。これは農協とタイアップして、大いに研究努力すべきものと信じますので、町民の皾様のご指導とご援助をお願い申し上げます。

◎あいさつをしましょう

津奈木駅前のトノミネ（塔の峰）に立派なお墓がたてられている。

いつか私はそこを通って、これはまた大変立派な墓だと思い近寄って見ると「津南先生深水宗安君之墓」としてあり、最後に「孝子玄門泣血建之」と書いてあった。これは深水玄門さんが今から一五六年前に、お父さんへの孝善のため建てられたのである。

私は雪のちらつく日に、見えない文字は指先でなぞくしてやっと亨し取ってきて、留魂録に淨書しておいた。

津南先生は深水宗安さんのことで玄門さんのお父さんである。

深水家は代々医者をして、芦北郡の南、津奈木郷におられたので、人みな津南先生といっていたらしい。

津南中学校の名も、これに似た名づけのようである。

深水三河守は津奈木城主であったが、その弟に軍介という方があり、川内に住すと記録に見えている。その子孫の方で僧侶となりまた医者にもなられた。その僧侶を代々うけつがれたのが今の正行寺の深水家であり、医者がつがれたのが、玄庵―宗恕―宗安（津南先生）―玄門―龍輩―東吾―長胤―清（代議士）―慎吾（再春荘の深水先生）となっている。軍介さんの墓は何処にあるのかはっきりしないが、河内の宮崎家の裏山にオオバカさんというのがあるがこは大墓さんの意で、ひたたかの墓のことあろうと思われ、軍介さんに関係があるのか、または宮崎家は元お寺があったとのことで、その方の関係の墓か、文字がはっきり読めないのでわからない。年々宮崎家でお祭りをされているとのこと！今は津南先生のことについて墓表によってゆし書いて見たい。

津奈木の歴史

津南先生のこと

千々岩頼母

奮とう―三太郎駅伝

1監督　農山保義
2総務　浜本繁己、福崎靖夫　上原良一
3コーチ　山口勝郎、野島正行　蒲池　洋、藤井英昭　小島利治
4主将　芦浦三郎

二十代選手層の薄さは各町のなやみ、特に本年は十一名と去年より三人増えたため困った。

参加チームは日奈久・田浦・芦北・湯浦・津奈木・水俣の六チーム、オープンに熊本・八代・芦農の各チーム参加

順位は、水俣・芦北・湯浦・津奈木・田浦で日奈久は失格

力及ばず四位になったことは残念だった。沿道になくさんの応援有り難うございました。そして駅伝がますく盛んになるよう町民の熱烈なるご支援をお願いいたします。

昭和44年1月12日三太郎駅伝走者

区間	距離	選手名
1水俣熊日前―津奈木役場前	7.8	前坂　通
2津奈木役場前―佐敷役場前	13.5	宮崎　健三
3佐敷役場前―田浦駅前	10.9	森下　紀裕
4田浦駅前―二見君ヶ渕	9.0	真野　英房
5二見君ヶ渕―鳩山	2.6	津々木一美
6鳩山―二見君ヶ渕	2.6	芦浦　三郎
7二見君ヶ渕―田浦駅前	9.0	草野　民生
8田浦駅前―佐敷役場前	10.9	平野　俊次
9佐敷役場前―湯浦役場前	4.0	坂口　茂美
10湯浦役場前―津奈木役場前	9.6	斉藤　誠
11津奈木役場前―水俣熊日前	7.8	福田　龍一

補欠　楠本徳夫　坂井豊水　古川秀喜

三太郎駅伝選手及び役員

青年団便り

染竹青年団

津奈木町青年団支部あつまろ会はできてまだ三ヶ月あまりにしかなりません。会員は男七名女八名計十五名で染竹、竹中の青年団が合流です。

「あつまろ会は青年期を迎えた若者が、人生の悩みや疑問を感じたり、苦しみや味わったり、社会の現実に不満をおぼえたりすることを、あつまろ会の友はおたがい手をとりあって輝かしい未来を心にひめて、自分からのために明るい社会を楽しい青春をかちとるために結成した会である。

四十三年度におこなった行事は次の通りです。

㈠十一月三日「文化の日」矢城ヘピクニック

㈡十一月九～十日阿蘇青年の家研修参加

㈢十一月十日より二十一日まで老人ホーム慰問のため七種目の踊りの練習

㈣十二月二十二日芦北老人ホーム慰問。慰問後クリスマスパーティー。

赤崎青年団

私達の青年団は男子十六名、女子六名、計二十一名の小さな集りで、平均年齢十九歳という若者ばかりです。

昨年行った行事を紹介します。金比羅宮相撲大会参加、天草御所ノ浦島キャンプ、赤崎小、町民体育祭参加、阿蘇青年の家研修、将軍宮祭りの踊り奉納、水俣選老院慰問、クリスマス、他部落青年団及び赤崎婦人会との座談会等が主なものです。

中でも特に心に残っているのが将軍さん祭りの踊りの練習です。林田秀丸師匠さんを中心に団員全部が二十日余りも毎晩十二時頃まで練習を続けました。私達は皆一生懸命やったつもりでしたが部落内での評判はあまり良くなかった様に思います。

祭りと関連しての事ですが、「赤崎の青年団は金もうけの行事はするが、ベーロン等のきつい行事はしない。」との声が一部から聞えました。しかし赤崎での男子の加入者がわずか十六名です。以前のように半強制的な団であったならベーロン位はやれたでしょう。

しかし現在は、都会への流出で人数が減少し、中には私達の集りに屈理屈を言って参加しない人も居ます。昔の青年団とは大分違います。

行事をするにしても皆が話し合いながら人間性豊かな社会人になることが私達の将来のビジョンです。

（森山繁人）

㈤十二月二十三日より月、木、土火のようじんの部落巡視、尚話し合いの場として毎月の第一第三金曜日を集会日として、これまでやってきました。

本年度の行事計画は次の通り。

㈠あつまろ会で「青年の家」研修をしよう。

㈡一月十一日より毎週土曜日習字の練習

㈢一月六日より毎週月、水曜に卓球、バレーボールなどの練習

㈣二月と十二月老人ホーム慰問

㈤廃品回収を3ヶ月一回の割合でおこなう。

㈥ちいさな親切運動をおし進めていこう。

㈦婦人会とか他の県、郡、支部の青年団などとの会合の場をもうけよう。

（上原良一）

新購入図書

天と地と　上中下　海音寺潮五郎
戦争と人間　1～8　五味川純平
風林火山　井上　靖
「新しい和裁教室」「和裁と和装」　江上トミ
私の料理　「頭の整理学」「着想の魔術」
「いやなコトを忘れる本」
「霊魂の世界」「決断力」
「十億ドルの頭脳が続々くる」
「ひくとるマンボー青春記」　御木徳近
愛　亀井勝一郎
現代夫婦論　田中澄江
溢れ出する愛
「騎当戦」「僕と彼女たち」　松本清張
「意気に感ず」「天下泰平」　以上源氏鶏太
「十代の危機」「漢方薬全書」
「ライシャワーの見た日本」　山岡荘八
吉田松陰
四十代からの健康　杉靖三郎
青年と人生を語ろう　モーロア
整体入門　野口晴哉
「植物百科」「動物百科」
「鳥類百科」
「茶の湯の作法とたて方」
石組と池泉の技法　上原敬二
「草花の作り方」「話し上手」
坂本竜馬　川本直水
異国の情　外園一人
「君の情熱と僕の真実」　外二三冊

芦北町マラソン

去る十二月二十日、芦北町主催のマラソン大会の案内をうけ、本町よりも参加させてもらい次の成績をおさめた。

二等　森下紀裕（中尼）　四等　福田祕（津南中三年）　七等　宮崎健三（平国小）　九等　斉藤誠（赤崎）

◎人のよろこぶことをしましょう

空手道に生く

門崎博臣
尼崎市

私の小学校時代特に低学年時代は、食糧不足で、私自身栄養失調におちいったことを覚えています。

この時期は父の病状も悪く、それに経済的にも苦しかったが、その間母が不具の父、二人の子供をかかえながら何とかこの苦境を乗りきってくれました。この苦しみを乗りきれたということは母の力はもちろんだが、周囲の暖かいご支援があったからです。特に父の「**恩師松本敞先生のご恩は私たち親子にとりまして忘れられないことです。**」

父は私が高校二年の時空手道修業の件も気持ちよく許可し、本田博師範（当時津小勤務）西直躬師範代（現津小）の芦北拳友会に入門することができました。

この時から空手道の苦しい修業が始まったのです。毎日身体のいたるところ突かれたり、蹴られたりで、その口惜しさといったら話になりませんでした。帰宅も時には深夜になる時もあり、**余りの苦しさに床の中でひとり泣いた**こともありました。しかし、この苦しさを克服した甲斐があり、高校三年の五月**二段**となり、それに加えて芦高空手道部の創設に成功しました。そこで、どうせやるなら最後まで空手道修業を続けようと思い、母の反対を押しきり昭和三十三年の春天理大学へ入学し、同時に空手道部へ入部しました。その後四年間というものは父母に迷惑のかけ通しでした。

その間四年連続全日本学生選手権出場、また高校時代に引き続き大学でも**主将**に押されました。成績は全日本選手権においてベスト8、関西大会で三位なと納め目標にもう一歩というところまで漕ぎつけました。

卒業後河合楽器製作所に入社し郷土の思い出はかず限りがない

思っただけでも胸がふくらむ
三月四月の潮干がり
「潟行き」のたのしみ
「ホゼ」拾い、「ビナ」とり
六月梅雨のころのやまもちぎり
それに夏のせりふね
ダクマ釣りにドグラ釣り
ガネ踏み
秋になれば矢城山登り、帰りがけのナバとりやウベちぎりの獲物で、カバンやふところは、はちきれるほどふくらんだ。

冬の兎狩り—集団で追ったあの兎狩り、六年生の時の兎狩りには赤崎と平国に近い松山で、巣にちぢかんでいた子兎を見つけて殊勲（？）をたて、大得意になって帰校したものだった。そういえばあの時の子兎はしばらく学校で飼ってみんなのマスコットになっていたっけ。

旧正月ともなれば小雪のチラつく裏山に「鬼火」に焚く木を切って、引いてくるたのしさ、つらさも忘れられない。

寒さのしみる二月頃、授業の休みの間に旧校舎の階段にかたまって、オシクラマンジュウをしながら読んだ竜子描く表紙の「日本少年」のなつかしさ。

あれも、これも思い出は泉のように湧き出てつきることはない。

× × × × ×

わたしは医者です。それも町の医者です。診察や治療で疲れた時手術などうまくゆかない時、いつも思うのは**津奈木の海**　それもさ、まって「大瀬の鼻」——大瀬の海のあの蒼さ——。

あそこを思うと、雪が陽にとけるように、つかれや、なやみが消えてゆきます。

「ふるさと」は私にとって不思議な**特効薬**です。

故郷は私の特効薬

林　勝
熊本市今山病院

ましたが、空手が忘れられず約二ケ月で退職、教師に転職しました。

その後大阪の道場へ下宿し修業をつみ関西大学OB選手権において優勝、準優勝の成績を納め現役を引退しました。

その間空手道**五段**及び**師範**を免許され目標を達成しました。

現在私が各方面に活躍できるということは、当時の津奈木公民館でのあの苦しかった修業があったからです。私を指導して下さった本田、西岡先生を始め諸先輩、それに村民の皆さまに心よりお礼申し上げます。

希望

希

郷土または郷土につながる先人先達の事蹟をもっともっと明かにし、大切にし、顕彰し、讃えることは大賛成です。

津奈木に委しい郷土史家もおられましょうし、その方たちを中心にして、みんなの力を集めて努力すれば、必ずできると思います。

大明神さん（阿蘇宮）があそこから遷してしまわれたのは大変残念でした。

郷土の風俗、民芸、民具、芸能を今の中にもっと大切にし、保存したい。

そのために郷土館（郷土室）を持つことの企画実現を切望します。否それよりも先ず

「図書館」あるいは「図書室」を整備していただきたい。図書の充実はもちろんです。

以上のことはすでに実現しているかもしれませんが、だとすればその内容の充実、完備を望むのみです。これらのことで私たちにもできる範囲で微力を尽したいと念願しています。

以上

（桜戸出身）

恩師

本田大九郎
熊本市

千々岩義信先生は私たちが尋常一年から三年までの担任でありましたが、小学校八年中の最も印象深い先生で、最も敬慕申した先生でした。私は尋常一年生の時は、今の旧国道のトンネル入口に住んでいたので、欠席する日が多く、途中まで行って**学校まで行きつかぬ日も多かった**ことを記憶しています。

一年生の終り方の三月のある日先生が同級生十人くらい教室に集めて「この中には、成績の悪いためとか、欠席が多いために二年生になれず落第する人がある。来年はしっかりやるようにとの意味の子供にもわかる緩慢に満ちたお話がありました。私はその時今もはっきり覚えていますが、一年中に九十七日しか出席していないとのことで、すっかり**落第**と幼な心に覚悟をきめて帰宅し、このことを父母にも告げました。ところが成績発表（そのころは長い紙に進級者、優等生落第生の氏名が書かれて張り出されていました。この日は成績発表というので、生徒にとっては重大な日でした。）の日におそるおそる見にいったところ、私の氏名「**農沢大九郎**」の五字が進級者の末席にありました。私は全く喜びよりビックリして、遠いトンネルの自宅までどうして帰ったかわからぬ程でした。

このことは私が成長するにつれて、深い思い出で、千々岩先生が私の住む遠方なことを**同情**して下さって（おそらく及落会議では、もめたことと思います）**進級**させて下さったものと、今もって感謝しております。

もしその時落第していたら私の一生はどんなコースを辿ったかわかりません。当時はまだ明治の終りで、

田舎では家柄や貧富で家格差が大きく、学校の先生の中にも事大思想的な人が多く、家柄のない家庭の子供や、貧農の子弟には同情や愛顧の念のうすい先生が多かったようです。**千々岩先生には実に高潔な先生で、極めて公平で人情深い中に、毅然とした犯し難い威厳と柔和な抱擁力のある、真の人格者でありました。**

私は一年生の時にこうした優れた卓抜な先生の受持ち生徒であったことが一生の仕合せであったと思います。

先生の喜寿の御年に任地の広島から帰郷し同級生の福島末喜君と今は故人の松本清人君と二人でお祝いに参上し、大へん喜んでいただいたことが、せめてもの万分の一の御恩報じと心になぐさめています。

（中尼出身）

倉谷青年団の美挙

倉谷青年団員は、他の部落より家に残って家業を助けているものが多い。そして、団結して青年団の仕事を進めている。

去る町民体育祭には、進んでマラソンに多数参加して町民の目を見はらせた。

年末には団員そろってシメかざりを日を重ねて作った。

売上の一部は芦北学園（芦北町）に寄附した。

（団長森下博明）

津奈木小へ寄附　二件

○昨年九月故鶴野覚氏のご遺族より香典返しとして金壱封（弐万円）

○匿名のご老人より金壱封（一万八千円）

寄贈されました。

ほしかったミュージックのチャイムを買わせてもらいました。代金不足の分は子供の廃品回収売払代で補いました。

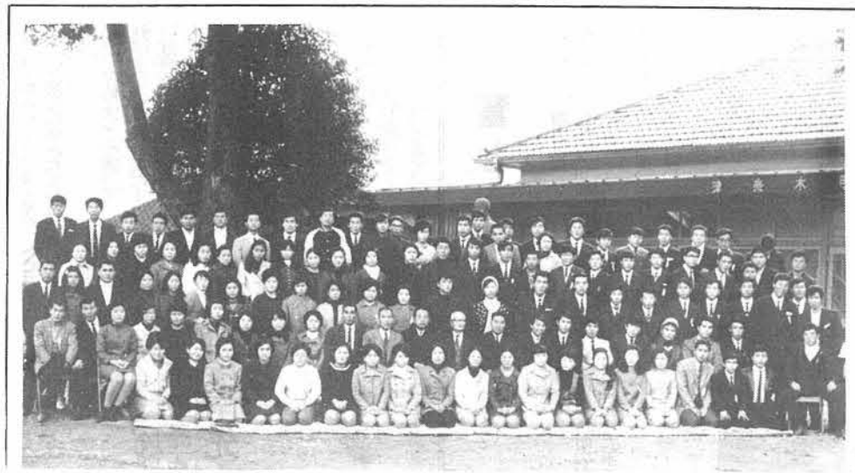
第三学期の一月八日よりこれら善意のご芳志により、美しい音色の時報を聞きながら勉強しています。厚く御礼申し上げます。

おことわり

この外に、木戸重光氏、鶴野六郎氏、斉藤淳生氏、片桐まさこさんらの原稿をいただいていますが紙面の都合で割愛させてもらいます。

◎人のようこぶことをしましょう

成人おめでとう



遠方に働きに出ていて成人になられた方々が、わざわざ帰省して成人式に参加していただいたことを感謝します。

さて、諸君が元気で二十歳を迎え、晴れの成人式に参加され得たことを、ご当人はもちろん、御両親に色々の意味からお喜び申し上げます。

成人式はたんくよくなっています。それは成人者の質がよくなっているためだろう。

今年は一三〇名ばかり出席でした。こんなことは今までにない多数で、やはりわが町の成人式がたのしい中に、意義あるものと言い伝えられているからでしょう。

とにかく、出席した人々はその職場においてなくてはならぬ人たちばかりである。大いに自重していただきたい。

諸君を四日夜のキャンドルサービス時の一本のローソクにたとえると、諸君は火をつけた一本のローソクです。最後まで燃え続けるよう健康に注意し、よく燃えるよう工夫し、更に自らが燃えるばかりでなく、他も照らしてやって下さい。

愛の一円塔

誰が入れたか知らぬ中に役場前のに千六百八円、駅前のに二千百七十七円入っていた。

人の見ていないときの善行こそほんとうの善行である。

この金は、社会福祉協議会に托して早速不幸な方々にとどけてもらった。

選挙管理委員異動

新任　農中三澄
　　永松登弥
従来からの委員
　　福田信順
　　竹永修人
退任された方
　　千々岩頼母
　　蟻川維満

成人式—今迄なんて遠い存在のように思えて来たことだろう。だがそれも今、私自身が直面すべき時が来たことを痛感する時、やはり実感としてない。周囲を見わたす—何故か他人を見るとき、それは心うつものがある。私自身気付かぬとき、それは他人に教えられた様な私のはたちの年令である事を……。

まったくのんきなものである。

これから大きな義務と権利が伴う行動に何故か未恐ろしい気がする。これでよいのでしょうか？過去を振り向いたところで何の結論も下されない。かと云って、振り向かずにはいられない。それは現在の心境—私のみであろうか—

だが今日の無事平穏は私一人のものではない事を悟る。それは両親の存在が余りにも大きいものであるからだ。まだまだ子供である。扶養される事が当然であった、これを迄と成人に成ろうとする明日からは違うのである。何故か？周の中に放出され一人さまよう自分を想像すれば大人というものにはなりたくない！自分の本心の様である。

不安定な生活から脱皮し、今後進むべき道を明確にしなければならない。大丈夫なのかしら？だがそれは私のみではないのだ。先輩達の歩んだ道であり、人間として立つべき大きな厳しい岐路ではないか—

そんな言葉に慰さめられ静かに成人としての心構えでも説こうか？らしくないなあ…まだ当分は実感が湧かない私の感の鈍さを喜ぶべきか悲しむべきか…こんな様々な思いのなかでやはり成人はやって来る。私のみが隠れる事の出来ない壁の様だ。**各自だけの大人**が当分つづく事であろうが…何時かやはり実質的にも成人として恐れる日のために努力しましょう。そうする事が私に最もふさわしい道の様だ。

こんなたよりのない成人式を覚えるにあたっての感想……成人式を迎える資格があろうかしら？

大人になりたくない……でもやってくる

浜本民子
新川小六年一同

「木炭の王様」優賞

赤崎小六年一同

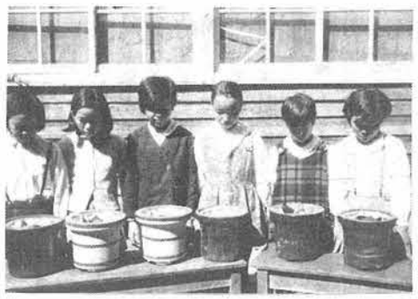
熊本県教育委員会主催の科学研究物展示会で、わが赤崎小学校の六年生の「木炭の王様と音の折れの研究」で優賞で入選し、熊日ジュニア科学賞をもらった。六年担任前田定邦先生の指導で六年全員の苦心の業績である。

夏休みを返上しての研究を重ね九月十月と続けてまとめたもの。

研究の結果を二部紹介すると、木炭の原木を焼くと、どれだけの重さになるか、それを月別に木の種類別にたんねんに調べた。それによると、原木の重さを一〇〇として製品の重さは、つばきを例にとると、八月二四%、九月二七%、十月二九%となって、寒くなるほど重くなる。それはすべての木がそのようだ。一番歩どまりのよい木はあかがしで、三九%となっている。（十月調）

その他木炭の火もち、堅さ、折れ工合、電気の流れ工合などの研究がなされている。

子供が大きくなって生業についた場合、この研究が土台となって科学的に実験的に営まれることだろう。女性も主婦となって生活設計がキチンとなされることだろう。そのとき、今の研究の実が結ぶ。



木炭の火もちの実験をしているところ

重い炭、軽い炭、やわらかい炭の火もちなどが木炭の種類ごとに実験された。そして各種の実験の結果、木炭の王様はあかがしであるようだ。

長半岩の国旗

去年十月十日の体育の日—町民体育祭—に、犬童洋服店に作ってもらった国旗をかかげたのでしたが、風が強くて早くも十二月なかばには破れ、落ちてしまった。

一月二日には真新しい国旗を仰いでいただこうと、また犬童さんにお願いした。年末で大多忙のうちにも「長半岩の国旗ならば」と縫って下さったのには恐縮。紙上をかりて御礼申し上げます。

一四八号に「長半岩の国旗竿が倒れるたびにおこしてくれる人がある。誰だろう」という記事を書いたことがある。その人が意外に竹中松本病院の若先生だったと聞いておどろいた。そしてこんな方からよいことを垂範していただいていることに感銘を深くした。やはり津奈木健在なりと天声をあげて叫びたい。